

「トランザクションSQVI:クイックヴューア」

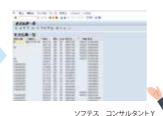
「SQVI:クイックヴューア」はレポート作成ツールになります。一覧出力したいデータのテーブル、項目を自由に選択し、抽出条件やソートの設定 などレポート作成に必要な一通りの機能が備わっています。一般的に「クエリ」という機能が知られていますが、その機能をより簡易的な操作で 実現できるため、緊急時や一時的にしか利用しないデータの出力を行う際などに適しています。

例えば、条件マスタの登録に誤りが発覚したため至急該当の受注を抽出したい、しかし既存のクエリやVAO5では条件指定ができずステータス などの一部情報も不足している時に、VBAK、VBAP、VBUP、MARA、MVKEなどの受注テーブル、ステータステーブル、品目マスタテーブルなどを 結合し、必要な抽出条件や出力項目を使って簡単にレポート作成が可能です。











皆さんの声

今まで経営層に提出していたレポートは、例えば売上なら、昨年との比較を出す位で した。最近は、品目ごとのトレンド、業界でのシェア、競合他社との棲み分けなど、要求が非 常に増えています。今まではSAPシステムから、エクセルに落としてレポートを作成してい ましたが、対応しきれないのでBIツールの導入を進めています。 (Sさん)

情報システム部って専門知識がいるという考え方があるのか、ジョブローテーションに組 み込まれにくいです。昔は確かにそうでしたが、今の情報システムは特殊な技術はいらな いと思います。弊社はできる限りシステム的な技術がいらないようにしています。ジョブ ローテーションに組み込んでもいいのではないでしょうか。 (0さん)

海外に比べて、日本は物事の動きが異常なほど速いと思います。一番感じるのは物流の 差です。日本は1日で全国各地に届くじゃないですか、でもヨーロッパでは1週間以内が普 通で、海外ではそんなのありえないです。弊社は外資系の企業なので、日本と海外のス ピード感の違いから、お客様対応で困ることもあります。 (Kさん)

セミナー開催のお知らせ

システム運用 アウトソーシングセミナ

数あるアウトソーシングを分類別にご紹介 SAP運用代行サービスの知られざる効能

東京開催 8月30日(火)14:30~17:30

ゲスト講演 アマゾン ウェブ サービス ジャパン(株) ユーザ事例 ルネサスシステムデザイン(株様 他)

SAP ERP新規導入セミナー

今、SAP ERPを導入するのは

東京開催 9月 8日 14:30~17:30

大阪開催 9月15日承 14:30~17:30

お申し込み、セミナー最新情報はこちら▼

次の時代への"下ごしらえ"

ソフテス セミナー Q、

編集後記「おかげさまで一周年!」

いつもお世話になっております。SAPユーザ・サミット担当の天野です。会報がおかげさ まで一周年を迎えました!会報を創刊してから今日まで、約80名の方からご意見を頂戴 し、紙面に掲載してきました。普段のお悩みから将来の夢まで、様々なご意見をくださっ た皆様、誠にありがとうございました。また毎月読んでくださっている皆様、至らない点も 多々あるかと思いますが、更なる充実を目指し行動して参りますので、温かく見守ってい ただけると幸いです。今後もよろしくお願い致します。



様々な声を募集しています! ぜひご応募ください!

FAXまたはWebサイトから 受け付けております





SAPユーザ・サミットに関する最新情報 ▶ Webサイト http://www.softes.co.jp/summit/ SAPユーザ・サミット

本社・浜松事務所 〒430-0944 静岡県浜松市中区田町330-5 遠鉄田町ビル4F

| お問い合わせ | SAPユーザ・サミット イベント事務局 TEL.053-450-3188 | MAIL:summit-ml@softes.co.jp

東 京 事 務 所 〒105-6112 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル12F







特集 SAP S/4HANA

S/4HANAのなにが良いの? 注目のユーザインタフェースSAP Fioriとは

シリーズ 原価差異の発生原因を探る②

現場の声

クラウドを利用していますか? 皆さんの声

- ◆ヒントFile「トランザクションSQVI:クイックヴューア |
- ◆セミナー開催のお知らせ システム運用アウトソーシングセミナー SAP ERP新規導入セミナー
- ◆編集後記 「おかげさまで一周年!」





特集 SAP S/4HANA

PS/4HANAのなにが良いの?



S/4HANAを紹介するイベントなどでお客様同士の会話です。「S/4HANAは何が良いの、速いだけでしょう。」「スピードアップだけだったら SAP ERPで十分、ユーザの不満もないし。」「SAP ERPを作りこんできたので十分に役割は果たせている。」など一様に後ろ向きの意見の洪水です。 SAP ERPが日本に上陸したときも同じような状態でした。「余計な機能ばかりで高額過ぎて投資回収できないんじゃないの?」などの疑問符がなら び、新規導入は遅々として進みませんでした。20年後の現在、改めてここで説明する必要がないほど企業発展に貢献しています。

◆1万倍のスピードアップ

S/4HANAを導入すると何がどう変わるのか、変えられるのか、先が見えないですね。クラウド、IoT、インメモリ、バーチャルリアリティ、AIなど様々な 技術が急速に進化しつつあります。システム環境の激変の中、業務システムはどんな変化をしていくのか? S/4HANAはどんな位置づけに考えて行 けば良いのでしょうか?単純に考えて、システムのスピードが速くなる。それも半端なものではなく、約1万倍の速さです。単に速くなるというだけでは なく、道具としてのあり様が激変するでしょう。原則的には次の3点の変化が考えられます。

- ① データ処理が速くなり、応答が飛躍的に速くなる
- ② データの処理能力が増大し、従来不可能であったビッグデータの処理が可能になる
- ③ 処理に多大な時間を要する広範囲で複雑なプロセスのデータ処理が可能になる

◆S/4HANAで事業はどう変わるか

この3点の事象からどんなことが想定されるでしょうか。

①は、応答が非常に速くなるということは、経営・事業の進捗に係わる情報は、広範囲の事業 について詳細な分析情報をクイックリーに把握できるようになります。まさに飛行機を操縦 するような事業・企業の操縦が現実のものになります。

②からは、ビッグデータの処理が想定されます。外部から取得するか、自身が大量のデータ を収集するかして、解析したデータを活用したビジネスモデルが考えられます。世界中に販 売した機械や消耗品にセンサーと通信モジュールを取り付け、メンテナンスサービスやマー ケティングに活用するという姿が一般化されると思われます。



マネジメント・コックピット

③については、複雑で大規模なビジネス環境におけるシミュレーションなどが想定されます。世界中に広がる何十という工場を対象としたMRPの展 開、全世界のサプライヤーを対象としたあらゆる生産資材の入札と物流管理など壮大なサプライチェーンのマネジメントが想定されます。

このようにシステムの基本的な機能の進化を想定しながら、S/4HANAを活用したダイナミックなビジネスモデルの姿が描けるものと思います。自社 のビジネスを対象として考えた場合、どんな姿が描けるか、是非挑戦してみてください。

注目のユーザインタフェース SAP Fioriとは

S/4HANAといえば新しいWebベースユーザインタフェースFioriが 話題になっています。こちらの画面は販売執行役員をユーザとして想 定し、弊社が作成した画面です。トップ画面に並んでいるものはタイ ルと呼び、分析系と登録系のアプリです。分析系は多種多様なグラフ 表示が可能なだけでなく、タイル上にも日々参照したいKPI(例えば 現時点の売上高、本日対応すべき未処理伝票数など)を表示してくれ ます。登録系は受発注登録などの日常業務処理を行うもので、ここで は新たに意思決定サポート機能として、例えば品目不足といった業 務処理上の制限事項に対して、対処方法とその推奨度合いを提案し てくれる機能が登場しました。

標準タイルは現在900以上用意されていますが、各社のニーズに応 じて独自のタイルを作成することも可能です。



シリーズ 原価差異の発生原因を探る②

本稿は標準原価(=原価の計画値)と実績値の差である原価差異(=計画値との差異)について、SAP ERP上での分析方法を3回に渡って 説明するものです。前回は分析する際の注意点や、原価差異の発生原因が大きく以下3点に分けられることについて説明しました。

①購買(調達)活動に関するもの ②生産活動に関するもの ③部門活動に関するもの

2回目の今回は製造指図に関連する原価差異について、詳細を説明したいと思います。





製造指図に関連する原価差異は、「外注加工費差異」「材料費差異」 「直接加工費差異」「製造間接費差異」が挙げられます。これらを前回 説明した分類にあてはめると、「外注加工費差異」は「①購買(調達)活 動に関するもの」、「材料費差異」「直接加工費差異」「製造間接費差 異」は「②生産活動に関するもの」にあたります。それぞれの原価差異 の計算方法は図の通りです。

「材料費差異」は部品・原材料の投入数量の差異です。「材料費差 異」については、部品・原材料の価格差異は製造指図分析では抽出 されない(前回説明の「①購買(調達)活動に関するもの」の「A部品・ 原材料に関するもの」にあたる)ことと、半製品を製造指図に投入し た場合、全額が材料費として扱われることに注意が必要です。特に 後者については、製品の材料費から半製品金額を控除した上で、別 途半製品の原価差異を分析する等、正確な原価分析を行うための

「直接加工費差異」は作業の投入数量の差異です。「直接加工費差 異」の実際原価は賃率再計算の影響を受けるため、原価差異を分析 する際には賃率再計算のタイミングに注意する必要があります。賃 率再計算実施前であれば「実績投入時間×標準賃率」で求められる ため、製造部門の能率に原因を求めることができます。賃率再計算 実施後であれば「実績投入時間×実際賃率」となり、明確に原因を特 定することができません。

今回挙げた製造指図に関わる差異についても、本質的な原因を把 握するためには、個別の指図単位で分析するのではなく、品目・構成 品目・プラント・仕入先・作業等で集計することが必要です。

◆DR対策の観点からクラウドを利用

不動産会社(従業員数 約100人)/IT部門

弊社はDR対策の観点からトップダウンで「クラウドにせい」と言われ、laaS型サービスを 利用しています。ハードウェアに障害が起こると、自動的にフェイルオーバーして切り替わ ります。セキュリティに関しては、当然何社か検討して、しっかりと確認しました。 以前は問題があれば、サーバにリモート接続する、現地に行く、などしていました。クラウド にしてその対応から開放されたことは、大きいです。心配がなくなりました。

◆セキュリティの確認はしっかりと

運輸業(従業員数 約230人)/IT部門 管理職

自社でやるよりはデータセンターに任せたほうが強固なセキュリティになると思います。 しかしベンダーは「実はセキュリティはこうなっています。」という開示はしません。なので 自分でセキュリティ設定をするように、どういうことができるか、できないかを細かく聞く ことが大切です。そうすれば、心配いらないと思います。クラウドはメモリやCPUを少しの 作業で増やせるので、繁忙期だけ増やしたりと、可変性がありとても良いと思います。

ベンダーは、全てのセキュリティ対策を講じてい るわけではありません。例えばクラウドの管理コ ンソールは、インターネット経由でもログイン可 能な場合もあり、管理コンソールの権限が剥奪さ れると、システムの起動、停止、削除などの操作を されてしまいます。クラウドベンダーのセキュリ ティ対策や責任分担をしっかりと理解して、自社 でもセキュリティ対策を講じる必要があります。 クラウドサービスは、単純なサーバ貸しとは違 い、多くのサービス(ジョブ実行・監視・通知、ADやWAF、 BigDate基盤、AI関連など)があります。 ぜひ、そういったサービスも積極 的に活用し、自社のIT改革に活 かしていただきたいと思います。

イシスコンサルタントH